

2019 年度 A セメスター留学プログラム報告書

派遣校：ソウル大学校

教養学部教養学科超域文化科学分科

学際言語科学コース 4 年

張暎洙

最終学期での交換留学

私は大学生活の最後の学期をソウル大学で過ごすことになりました。卒業に必要な全ての単位が取れていて、あとは卒業論文の提出だけという状態であれば、最終学期に海外の大学へ交換留学をすることも一つの選択肢になりえます。そしてキャンパス・アジア・プログラムの場合は所属学科・コースの許可があれば派遣生に選んで頂くことができます。私が自分の所属学科・コース（教養学部教養学科超域文化科学分科学際言語科学コース）で受けた注意点は、以下の通りでした。

- ・教務課に「留学許可届」を提出すること
- ・11 月中旬の卒業論文中間発表の時に東京に帰って来ること
- ・11 月中旬に教務課に「卒業論文題目届」を提出すること（提出期間は 1 週間）
- ・1 月の卒業論文提出期間までに帰国すること

したがって 11 月中に 1 度一時帰国をする必要があり、その際に卒業論文中間発表と届け出の提出を済ませました。教養学部では 12 月中に「卒業関連調査書」というものの提出を促されるのですが、これはメールでの提出が受理されました。

生活

住居

キャンパス内にあるグローバル学生生活館(916 棟)で暮らしていました。費用は 1 学期 906,000 ウォンでした。最寄り駅はナクソンデ駅で、駅から冠岳 02(관악 02)というバスに乗ると 10 分ほどで着きます。

新しく建てられた寄宿舎で、私たちが最初の入居者でした。4 人部屋の場合、一人ひとりに個室があり、シャワー室とトイレは共用です。また各フロアに洗濯機と乾燥機が 2 台ずつ入った洗濯室があります。留学生と現地学生の比率が決まっているのかは分からないのですが、留学生が多いです。私の部屋は 4 名中 2 名が現地学生で、私ともう一人の学生が交換留学生でした。建物の 1 階にコンビニ、カフェ、サンドイッチ屋さんが入っています。施設全体が新しくきれいで、不満な点は何もありませんでした。

食事

以下、私が利用していた主な食堂です。全てキャンパス内にあります。

朝食：919 棟（寄宿舍）・900 棟（寄宿舍）・学生会館

昼食：チャハヨン食堂・学生会館

夕食：919 棟（寄宿舍）・900 棟（寄宿舍）・チャハヨン食堂

一食 2500～4000 ウォンで食べられますが、学生会館では毎食 1000 ウォンのメニューが提供されるので、安く済ませたいときはおすすめです。交通カード機能付きのキャッシュカードと学生証を紐付けておくと、配膳カウンターで簡単に支払いができます。

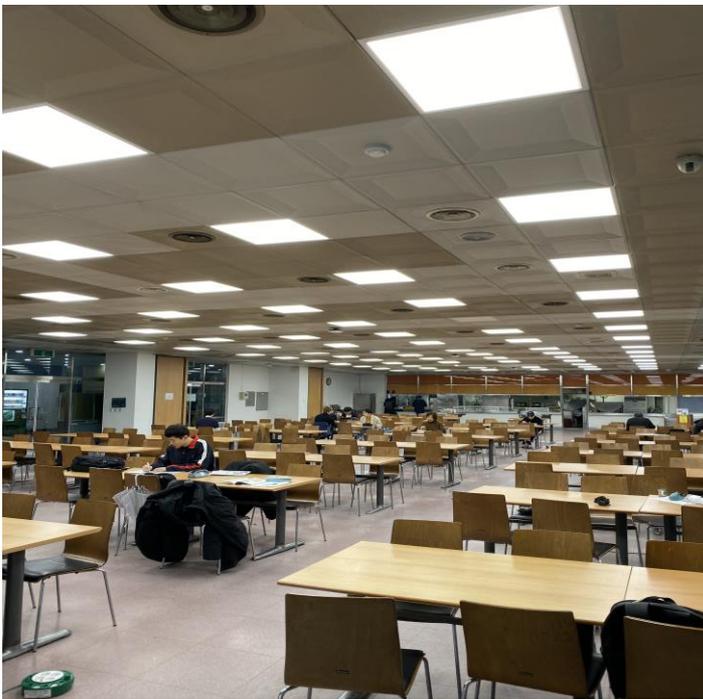
友人と外食をする場合は、ソウル大入口駅からナクソнде駅の方向に続くシャロスギルで食事をするが多かったです。今や主におしゃれなお店が立ち並び、昔の学生街の姿は失われているとのことでした。そのため価格帯も高くなっていて、一食につき約 10000～15000 ウォンでした。それでも日本よりは安いです。



学生会館で 1000 ウォンで食べられるメニューの例。タンパク質がほとんど取れないメニューのときもあるので注意が必要。



チャハヨン食堂のポッサム定食。一番美味しかった。



919 棟の食堂。食事提供以外は勉強部屋（閲覧室）として開放される。

ジム

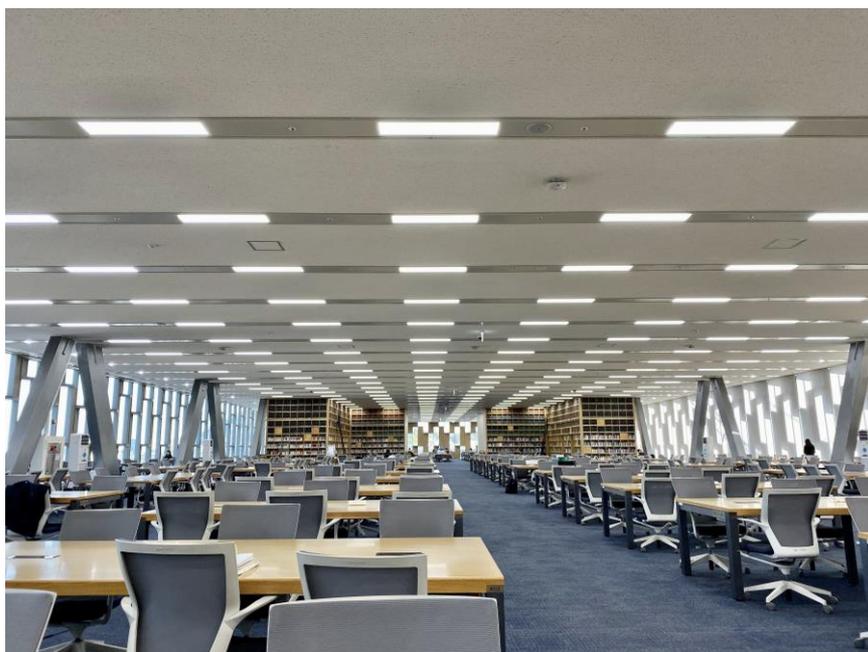
寄宿舎の 900 棟にあるジムを使用していました。一ヶ月 60000 ウォンでした。初めに一度だけ無料でパーソナルトレーニングが受けられます。

学習場所

授業を履修する建物から近かったこともあり、中央図書館冠廷館(관정관)で主に勉強していました。この冠廷館は本の貸し出しは(恐らく)行っておらず、全館が勉強のための空間です。グループ学習室もたくさんあります。このような施設は東大にはないのでとても羨ましかったです。夜の時間は919棟の食堂が学生の勉強用に開放されるので、そこで勉強していました。



冠廷館2階のスタディスペース



冠廷館8階の閲覧室。極めて広い。全席に番号が振られているので予約を入り口の機械またはアプリから行う必要がある。また席を立つ際に返却も同様に行わなければならない、これを5度忘れると10日間の制裁により席の予約ができなくなる（非常に評判の悪い制度）。私は2度の制裁を受け、制裁中は他の場所（2階のスタディスペースなど）での勉強を余儀なくされた。

授業

次の3つの授業を履修しました。

1. 統一教育論（師範大学倫理教育科）
2. 高級中国語（人文大学中語中文学科）
3. 中国語会話2（人文大学中語中文学科）

卒業論文の作業も授業履修と並行して進める必要があったことから、履修授業数はやや少なめになりました。学期開始からはじめの1ヶ月間は「心理言語学研究」という大学院生向けの自分の専攻分野の授業を取っていたのですが、余裕がなくなり履修をキャンセル（「ドロップ」）することになりました。履修の取り消しができる期間が東大よりも長く1ヶ月ほどあるので、履修するかしないか迷った場合にはとりあえず登録しておいて、何回か授業に参加した後を決めるのが良いと思います。

1. 統一教育論（師範大学倫理教育科）

パク・ソンチュン教授

木 14:00-16:30

この授業は師範大学倫理教育科の必修授業でした。そのため25名程度の受講者のうち私ともう一人の学生以外はこの学科の学生たちでした。師範大学というのは日本で言う教育学部のこと、主に学校の先生を目指す学生たちが所属しています。その中でも倫理教育科は、将来韓国の中学校・高校で「道徳」の授業を担当する教員を育成しています。つまり、韓国の中学校・高校では「統一教育」が道徳教育の枠組みの中で行われているのです。私は留学前から留学期間中に朝鮮半島の分断及び統一問題に関係する授業の履修を希望していたのですが、その中からシラバスを見て最も興味を惹かれた授業がこの授業でした。

この授業では、教授と学生の距離の近さに驚きました。授業の雰囲気はどこか中学校の授業と似ていてにぎやかで、特に教授が学生に対して大変フレンドリーに接する様子がこれまでに私が大学で受けてきた授業とは異なり新鮮でした。またカカオトーク上で受講学生と教授による匿名のチャットルームが作られ、そこでは授業中・授業外ともに学生が遠慮なく先生に様々な「声」をぶつけていました。特にこのチャットルームで課題の提出期間延長や内容の変更が学生側から提案されると、大抵の場合教授が理解を示して要求が認められていました。こうした柔軟さには少し戸惑いながらもその恩恵を享受していた次第です。

統一教育はどうあるべきか、一方的な知識やイデオロギーの注入にならないようにするにはどういった授業設計が望ましいか、という統一教育の実践に関わるトピックはもちろん、開城工業団地やドイツ統一の事例、脱北者の人々の暮らしなど、朝鮮半島の分断と統一と関連のある様々なトピックが授業では扱われました。10 回弱の課題提出があつて毎回韓国語で文章を書かなければいけなかったので、韓国語の作文トレーニングにもなりました。このとき大変役に立ったのが、教授学習開発センター(교수학습개발센터, CTL)の作文チュータリング(글쓰기

튜터링)です。自分で書いた韓国語の文章を予めアップロードしてセッションを予約すると、その時間に書いた内容や韓国語の使い方について個別で指導が受けられます。行くと韓国語だけでなく内容もかなりブラッシュアップされるのでとてもおすすめです。早めに課題を書き終えた際にはこれを利用して添削を受けるようにしていました。

2. 高級中国語（人文大学中語中文学科）

イ・ジョンフン教授

月水 17:00-18:15

なかなかハードな授業でしたが、これまで若干いい加減に進めていた中国語学習をあらゆる側面から転換させる経験になりました。「なんでそんなに発音が下手なんだ？(너 발음 왜 그렇게 못 해?)」と授業後に居残りで中国語の発音指導を受けたり、中国語から韓国語の翻訳で韓国語をしきりに直されたりと、韓国語も中国語も履修者 20 名のうち最底辺という状況の中、どの授業よりも長い時間を費やし苦労したのがこの授業でした。中国語の文章の翻訳がメインの内容でしたが、毎週 250 個ずつの漢字テスト（各漢字の発音と意味）が実施され、相声（中国版の漫才のようなもの）や中国語で行われるプレゼンテーションを「完コピ」する課題が中間テストと期末テストにあるなど、学期を通じて気が抜けないとても良い授業でした。

3. 中国語会話 2（人文大学中語中文学科）

リュウ・ヤペイ教授

月水 12:30-13:45

中級レベルの会話の教科書を使用する授業でした。受講者が 5 名しかおらず、たくさん話したり質問したりすることができました。中間テストと期末テストが筆記と口頭の両方でありました。

その他

言語交換

SNU Buddy の Language Exchange Program を通じて中国からの留学生 2 名と言語交換を行っていました。ウェブサイトにて自己紹介と連絡先を載せておくと、言語交換をしたい相手に自分から連絡したり、向こうから連絡を受けたりすることができます。どちらの人とも週に 1 回ずつカフェで会って、言語を教え合っていました。言語学習という明確な目的意識を持って会うので、毎回お互いにとって有意義な時間が過ごせたと思います。私は韓国語ではなく中国語のために言語交換を行っていたのですが、日本語を学びたい韓国人もきっといるはずなので、韓国語を学びたい場合は早めに登録をして情報をこまめにチェックするのが良いと思います。

方向音痴を苦しめるソウル大

キャンパス全体が山にあるので、とにかく坂道が多く、道も多くの場合曲がりくねっているため建物同士の位置関係を掴むのにとっても苦労しました。方向感覚の優れた人にとっては何とことないのかもしれませんが、私は最初の頃何度苦しめられたことか……。

夜派が多い韓国の大学

寄宿舎の勉強部屋は、夜 10 時を過ぎて混み始めることに驚きました。日を跨いでから勉強し始める人もいて、夜中または朝まで追い込むように机に向かう '벼락치기' の文化が根強く存在していると感じました。テスト期間中は図書館が 24 時間空いているらしく、朝の図書館のトイレで歯を磨く友人に出くわすこともありました。

食堂にスマイルゾーン？

口周りをきれいに保つ習慣を大切にしている人が多いと感じました。食堂には水・ティッシュ・鏡ゾーンがあり、食後は鏡に向かって「イーッ」しながらティッシュで口周りを拭いている人がたくさんいます。そしてお昼の時間にはトイレの洗面所で歯磨きに勤しむ学生を毎日目にし、日本の大学では見慣れない光景に感心し、学期半ばからは自分も取り入れていました。極めつけは、留学フェアへのボランティアへの謝礼として大学から頂いた謝礼がソウル大オリジナルの歯磨きセットだったこと。にんにくや唐辛子をふんだんに使う韓国料理の特徴が関係しているのでしょう。

7 歳差のクラスメイト

韓国の大学では大半の男子学生が兵役のために休学をし、さらに就職準備（試験勉強など）のために卒業を遅らせるケースが極めて一般的なので、同じ授業の受講者の間でもかなりの年齢差が開いている場合があります。私の取っていた高級中国語の授業には、2019 年度入学

(19 학번)の1年生が数名いたとともに2012年度入学の学生もおり、この人が大学に入学した頃あの1年生はまだ小6だったのか、と不思議な感覚に陥りました。

SNU Buddy

SNU Buddy という現地学生と交換留学生らによるサークルに参加していました。20-30名のグループで学期を通じて色々な活動・遊びをします。また毎週木曜日の夜にはナクソンデ駅の居酒屋で飲み会がありました。フルコミットするほどの時間と体力はなかったのですが、現地学生、交換留学生問わず楽しい仲間がたくさん出会うことができ、良い思い出になりました。

東京大学ソウルオフィス

ソウル大学には東大のオフィスがあります。毎学期一度ずつセミナーを開催されているようで、11月中旬に私も一度参加させていただきました。ソウル大学に勤務されている日本人の教員の方々とも知り合うことができ、日韓の学生交流に関して発表の機会も頂き良い経験になりました。

住民登録（韓国籍の方向け）

もしこれから韓国に留学に行かれる方の中に韓国籍の人がいたら、韓国で生活を始めるにあたり「住民登録」をする必要があります。自分の本籍の住所（証明するものは特になくて良い）とパスポートを洞の住民センター、ソウル大寄宿舍の場合はナクソンデ駅近くのナクソンデ洞住民センターに持っていきましょう。住民登録証を発行してもらえます。発行には3週間ほどかかるのですが、申請したその場で臨時の住民登録証がもらえます。

また各種サービスの登録に携帯電話番号とそれに紐付けられた住民登録番号が必要なことが多いので、住民登録をした後にソウル大の学生センター内にある携帯ショップへ行きSIMカードを購入するのが良いと思います。